

第4章 SNSの影響を踏まえた「豊かな人間関係づくり」の指導・支援の実際

1 SNSの影響を踏まえた「豊かな人間関係づくり」の年間計画について

「豊かな人間関係づくり」を促進する活動には、リレーション（触れ合い）づくりを目的とする構成的グループエンカウンターや社会的スキルの習得を目的とするソーシャルスキルトレーニングなど様々な活動内容が考えられる。本章では、SNSの影響を踏まえた「豊かな人間関係づくり」の具体的な年間計画について、学級活動における年間計画例と個別の指導・支援例を示す。そこでは、第3章で述べたように、R-PDCAに基づく年間計画であること、「自他の理解」、「他者や集団への適応」、「他者と交流する実践力」の三つの観点から「豊かな人間関係づくり」を育成することを目標にした年間計画であることとして、当センターが校種別に作成した内容である。年間計画例では、活動と三つの観点との関連を○印によって示している。概要は以下のとおりで、詳細はpp. 93～101に掲載している。また、pp. 102～104に研究提携校による授業の実践例も載せているので、年間計画例と併せて参考にし、各学校の実践の参考にしていきたい。

(1) 校種別年間計画の概要 ※詳細はpp. 93～101で記す。

	学級活動の年間計画（学級プラン）	個別の指導・支援計画（個別プラン）
小学校	SNSを利用する児童が学級の半数で、自己肯定感が低く心身の状態が不安定な児童が2～3人いる学級の指導例	スマートフォンを所持しており、特異な行動を取る第6学年男児への個別指導・支援例
中学校	SNS利用のグループが固定化し、トラブルも表面化し始める一方、不登校や自己肯定感が低い生徒もいる学級の指導例	LINEのグループトークで友人関係に悩む第3学年女子生徒への個別指導・支援例
高等学校	SNS利用のやり取りが多く、良好な友人関係ができているが、一方で不登校経験者や自己肯定感が低い生徒もいる学級への指導例	SNSを利用しているが、自己肯定感が低く、「『即レス』の悩みや負担感」のある第1学年女子生徒への個別指導・支援例

(2) 年間計画を作成する上での重要なポイント

「豊かな人間関係づくり」を育む指導・支援の重要となるポイントを次のように示す。

- 活動の内容と「自他の理解」、「他者や集団への適応」、「他者と交流する実践力」の関連性を明確にする。
- 年間を見通した教育活動を通して、「豊かな人間関係づくり」が深まるように段階的なねらいをもって発展させる。
- 生徒の実態に合った多様な教育活動を用意し、児童生徒一人一人が協働で話し合いながら主体的・意欲的な活動がより質の高いものになるようにする。
- 特別活動で行う教育活動が単なる話合いや体験活動に終始しないように留意し、日常生活に還元するためにも、「導入過程」、「展開過程」、「シェアリング（振り返り）過程」といった展開を重視する。
- 各教科等における指導と有機的に関連させながら、「豊かな人間関係づくり」を育む教育活動を実施していく。

2 「豊かな人間関係づくり」の年間計画例（学級プラン・個別プラン）

各校種のR-PDCAサイクルに基づいた「豊かな人間関係づくり」の事例を紹介する。

(1) 小学校におけるSNSの影響を踏まえた年間計画例

ア 学級プラン（1～2学期間：R→P→D→C→A→Dの1サイクル）対象学年：第6学年

期	活動内容	「豊かな人間関係づくり」の3観点		
		理解	適応	実践力
1 学 期 前 半	R：Research 調査 <input type="checkbox"/> 学級のSNS利用等の実態を把握する。 ・ 「学校楽しいーと」、「SNSチェックシート」を実施する。 ・ 調査結果に基づく全員対象の簡単な面談，前学年担任への聞き取りや家庭訪問等で個別の情報収集をする。	○		
	P：Plan 計画 <input type="checkbox"/> 学級の「課題」、「目標」、「取組内容」を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〔課題〕</p> <p>「学校楽しいーと」等の調査結果から学級全体としては、学級集団における適応感や友達との関係等，良好な結果が得られている。しかし，各個票から自己肯定感が低かったり，心身の状態が不安定だったりするなど，個別支援を必要とする児童が2～3人見られる。また，SNS利用等の調査結果から，トラブルを経験した児童はいないものの，半数近くの児童が利用しており，早い段階でSNS利用について長所・短所，利用上の注意点等について考えさせる必要性がある。</p> <p>〔目標〕</p> <p>SNSの影響を考えた「豊かな人間関係づくり」授業プランの活動を通して，学級全体での「自他の理解」，「他者や集団への適応」を高めるとともに，SNSの影響による友人関係を考慮した人間関係づくりについてSNS利用の長所・短所，利用上の注意点等の理解を深める。</p> <p>また，児童それぞれが個々の特性を理解し，よりよい集団づくり，人間関係づくりを推進しようとする態度を育成する。</p> <p>〔取組内容〕</p> <p>※ 以下の実行例を参照。</p> </div>			
1 学 期 半 ば	D：Do 実行例 <input type="checkbox"/> 自己理解・他者理解や自己開示・相互理解を中心に，新しい学級集団への適応を図る。 ・ 全員を対象とした面談を通して，それぞれの児童によさを伝える〔個別に支援を要する児童は個別のR-PDCAサイクルによる対応を継続する〕。 ・ エクササイズ「すごろくトーキング」や「二者択一」を実施し，児童自身の自己開示や友達の話をお聴くことを通して，自己理解と他者理解を促す。 ・ ビデオフォーラム（SNS利用における「なりすまし」等）を通して，SNSを巡る利便性や危険性を理解させる。	○	○	○
	C：Check 点検			

2 学 期 前 半	<input type="checkbox"/> 児童のSNS利用等の実態を把握する。 <ul style="list-style-type: none"> 2回目の「学校楽しいーと」, 「SNSチェックシート」を実施する。 			
	<p>A : Act 修正</p> <input type="checkbox"/> 「目標」を修正する。	<p>SNS 利用におけるトラブル等は発生していないが, SNS に関心をもったり, 利用者が増えていく傾向が見られたりしたため, 更によりよい集団づくり, 人間関係づくりを意識しながら, 授業プランを通した SNS 利用について理解を深めるような取組を推進する。</p>		
2 学 期 後 半	<p>D : Do 実行例</p> <input type="checkbox"/> SNSでの陥りやすい事例を通して, SNSの使い方を振り返らせ, 学級全体の人間関係がより親密で和やかなものになるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> エクササイズ「SNSで伝える『いいところ探し』」を通して, 自分や友達によさに気付かせるとともに, 受け取る他者の立場に立った表現について考えさせる。 エクササイズ「短所は長所, SNSによるリフレーミング相談」を通して, 長所・短所をリフレーミングすることで, 自他のよさを認めさせる。 エクササイズ「SNSでも使える上手な断り方」を通して, SNSでのやり取りをやめたい時, できない時にどのような上手な断り方や表現方法があるかを知り, 他者理解を促進させる。 	○	○	○
			○	○

イ 個別プラン（1学期間：R→P→D→C→A→Dの1サイクル）

期	活動内容	「豊かな人間関係づくり」の3観点		
		理解	適応	実践力
1 学 期 前 半	<p>R : Research 調査</p> <input type="checkbox"/> 学級のSNS利用等の実態を把握する。 <ul style="list-style-type: none"> 「学校楽しいーと」, 「SNSチェックシート」の結果（レーダーチャートのバランス）から気になる児童をスクリーニングする。 スクリーニングした児童は, 学年会や教育相談係会, 生徒指導部会等でアセスメントし, 見立て・手立てを策定する。 			
	<p>P : Plan 計画</p> <input type="checkbox"/> 個別の「課題」, 「目標」を設定する。	<p>[課題] 男子児童Aは, 特異な行動をとるなど特性が顕著で, 友達とのコミュニケーション不足から集団での活動が苦手な児童である。家族と連絡をとるためにスマートフォンを所持している。現段階では, SNS に関心はない。</p> <p>[目標] 家庭との連携を密に図りながら, Aの心の安定が図られるようにするとともに, 班活動や集団活動においてトラブルを未然に防いだり, 孤立したりしないような手立てを講じる。</p>		

1 学 期 半 ば	<p>D : Do 実行例</p> <p><input type="checkbox"/> 日常の観察，継続的な面談を実施し，心の安定を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校楽しいーと」の結果から，レーダーチャートのグラフの広がり小さく，特に自己肯定感が低いため，個票を基に回答に対するAの心情等に迫りながら確認する。 どのようにしたら，友達と上手にコミュニケーションが図られ，協動的に活動ができるのかを，良好な状況の時の様子を思い出させながらAに気づきを促す。 授業中，休み時間等の観察を通して，Aの困り感を察知し必要に応じて適切な支援をする。 <p><input type="checkbox"/> 職員間の支援体制を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童に関わる全ての職員で情報を共有し，協働で支援するネットワークを確立する。 特別支援教育コーディネーターと連携し，Aへの対応について支援計画を作成する。 	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○			
1 学 期 後 半	<p>C : Check 点検</p> <p><input type="checkbox"/> 個別に2回目の調査を実施し，1回目と比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年会，職員研修，生徒指導部会等でAの変容について確認するとともに，これまで実践してきた具体的な対応策についての検証を行う。 <p>A : Act 修正</p> <p><input type="checkbox"/> 「目標」の修正をする。</p>	○	○	○			
<p>「学校楽しいーと」の個票から，心身の状態，自己肯定感の高まりが確認できた。現時点では，学級集団における適応感も良好な状態である。授業や学校行事等での活動を通して，感じたことや思ったことを自覚させながら，集団で活動できたことを評価していきたい。また，Aに関わる児童にもAに対する理解を促し，よりよい人間関係が築けるように働き掛ける必要がある。</p>							
<p>D : Do 実行例</p> <p><input type="checkbox"/> 日常的な継続支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業中，休み時間等の観察を通して，Aの困り感を察知し，必要に応じて適切な支援を継続する。 <p><input type="checkbox"/> 個別面談でソーシャルスキルトレーニングを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のコミュニケーションパターンに気付かせ，ソーシャルスキルトレーニングを通して，適切なコミュニケーションができるようにする。 <p><input type="checkbox"/> 授業・係活動等でのグループ活動の推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 構成的グループ・エンカウンター等を通じたよりよい人間関係づくりを継続し，グループ活動等において自他を尊重し，思いやりのある適切な言動を身に付けさせる。 					○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○

(2) 中学校におけるSNSの影響を踏まえた年間計画例

ア 学級プラン（1～2学期間：R→P→D→C→A→Dの1サイクル）対象学年：第3学年

期	活動内容	「豊かな人間関係づくり」の3観点		
		理解	適応	実践力
1 学 期 前 半	R：Research 調査 <input type="checkbox"/> 学級のSNS利用等の実態を把握する。 ・ 「学校楽しいーと」、「SNSチェックシート」を実施する。 ・ 調査結果に基づく全員対象の簡単な面談，家庭訪問，前学年担当から情報収集を行う。	○		
	P：Plan 計画 <input type="checkbox"/> 学級の「課題」、「目標」、「取組内容」を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>〔課題〕</p> <p>最上級生として，学校のリーダーとしての自覚をもった行動が望まれるが，グループの固定化，SNS 利用によって生じる問題の増加等，人間関係を巡るトラブルが表面化してくる時期でもある。また，グループに入れず孤立感を深めている生徒，不登校や仲間外れ等，これまでの経験から自己肯定感が著しく低い生徒もいる。</p> <p>〔目標〕</p> <p>SNS との正しい関わり方を理解し，互いのよさや個性を認め合い，思いやりの心をもって行動できる生徒を育成する。</p> <p>〔取組内容〕</p> <p>※ 以下の実行例を参照。</p> </div>			
1 学 期 半 ば	D：Do 実行例 <input type="checkbox"/> 自己理解・他者理解や自己開示・相互理解を中心に，新しい学級集団への適応を図る。 ・ 全員を対象とした面談を実施し，生徒のよさを伝える〔個別の関わりを必要とする生徒は個別のR-PDCAサイクルによる相談活動を継続する〕。 ・ エクササイズ「すごろくトーキング」を実施し，生徒自身の自己開示を促しながら人間関係づくりを図る。	○		○
	<input type="checkbox"/> SNSの特徴や，SNSを利用する上で人間関係を大切にすることを学習する活動を実施する。 ・ SNSのメッセージのやり取りで生じる課題を扱ったワークシート「うまく伝わらない」を使ってグループ活動を行い，SNSと対面のコミュニケーションの違いと問題点に気付かせる。	○	○	○
2 学 期 前 半	C：Check 点検 <input type="checkbox"/> 生徒のSNS利用等の実態を把握する。 ・ 2回目の「学校楽しいーと」、「SNSチェックシート」を実施する。			

<p>A : Act 修正</p> <p>□ 「目標」を修正する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>LINE グループ内での「LINE 外し」による友達関係の悪化が不登校につながるケースが出たため、その問題点に気付かせ学級集団の親睦をより深めるようにする。</p> </div> <p>D : Do 実行例</p> <p>□ SNSでの陥りやすい事例を通して、SNSの使い方を振り返らせ、学級全体の人間関係がより親密で和やかなものになるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNSで友達の悪口や嘘の情報を書き込んだことが発端となり、学校に来られなくなった事例を示し、SNSでのやり取りが仲間を阻害する、いじめ構造に陥る問題があることを考えさせる。 ・ 構成的グループエンカウターのエクササイズ「してあげたこと、してもらったこと」を実施し、互いのよさを見付け出させ、リレーション（つながり）を構築させる。 			
	○	○	○
	○	○	○

イ 個別プラン（1学期間：R→P→D→C→A→Dの1サイクル）

期	活動内容	「豊かな人間関係づくり」の3観点		
		理解	適応	実践力
1 学 期 前 半	<p>R : Research 調査</p> <p>□ 個別のSNS利用等の実態を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「学校楽しいーと」、「SNSチェックシート」の結果から、リーダーチャートのバランスが極端に崩れている、また、SNS利用が日常生活に影響を及ぼしていると思われる生徒をスクリーニングする。 ・ スクリーニングした生徒は、学年会や教育相談係会にてアセスメントし、見立て・手立てを策定する。 	○		
	<p>P : Plan 計画</p> <p>□ 個別の「課題」、「目標」を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〔課題〕</p> <p>女子生徒Bは部活、学級、通学も一緒にの友達との関係で悩みを抱えている。その友達が自分にだけ違う態度で接すること、LINEのグループトークに、自分には分からないようなメッセージが書き込まれることに困り感をもっているが、周囲からは考えすぎ、被害妄想のように捉えられていることにも悩んでいる。「どうせ何をやっても無理だ。」のような発言があり、自己肯定感が低く不安定な状態にある。</p> <p>〔目標〕</p> <p>『やり取りをする相手との関係性』に悩み・負担感をもっていることから、クラスの友達との関係性を構築し、「自分は受け入れてもらえる」と感じられる活動を実施していく。</p> </div>			

	<p>D : Do 実行例</p> <p><input type="checkbox"/> 継続的な面談を実施し、不安感の解消を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「～と感じていたんだね。」と、そのままを受容する姿勢を大切にしながら相談を継続し、相談によって不安が和らぐ経験を繰り返す。 自己のよいところや好きなところを表出させ、それらを肯定的に受け止め、認める経験をさせる。 <p><input type="checkbox"/> 学級の友達との信頼関係の構築を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 短学活で構成的グループエンカウンターエクササイズ「リフレーミング」を行い、友達に自分の短所を長所に言い換えてもらうことで自己肯定感を高め、友達との信頼関係をつくる。 <p><input type="checkbox"/> 職員間の支援体制を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒に関わる全ての職員で情報を共有し、協働で支援するネットワークを確認する。 			
1 学期 後半	<p>C : Check 点検</p> <p><input type="checkbox"/> 個別に2回目の調査を実施し、1回目と比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年会、職員会議でどのような変容が見られたのかを確認するとともに、これまで行ってきた具体的な対応策についての検証を行う。 <p>A : Act 修正</p> <p><input type="checkbox"/> 「目標」の修正をする。</p>			
<p>Bは、1回目の個票と比較して、自己肯定感は高まり、「『やり取りをする相手との関係性』の悩み・負担感」はやや和らいだ。他の友達には自分の素直な気持ちを話せるようになってきているが、特定の友達との関係の悩みは続いているので、定期的な面談を実施していく。</p>				
	<p>D : Do 実行例</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的な面談を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 面談を重ねる中で、自分の本音を語ることで自分の不安を和らげ、自分の目指すべき方向性を見付けることができることを繰り返し経験する。 <p><input type="checkbox"/> 学級の活動でアサーショントレーニングを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ロールプレイングを繰り返しながら、自分の感情や要求、意見の適切な表現方法を身に付けさせる。 シェアリングを十分に実施し、自己開示がしやすい関係づくりを図る。 			

(3) 高等学校におけるSNSの影響を踏まえた年間計画例

ア 学級プラン（1～2学期間：R→P→D→C→A→Dの1サイクル）対象学年：第1学年

期	活動内容	「豊かな人間関係づくり」の3観点		
		理解	適応	実践力
1 学 期 前 半	R：Research 調査 <input type="checkbox"/> 学級のSNS利用等の実態を把握する。 <ul style="list-style-type: none"> 「学校楽しいーと」, 「SNSチェックシート」を実施する。 調査結果に基づく全員対象の簡単な面談, 家庭訪問, 中学校時の担任からの情報収集を行う。 	○		
	P：Plan 計画 <input type="checkbox"/> 学級の「課題」, 「目標」の設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>[課題] 学級は, 規模の異なる複数の中学校から構成されており, 既に SNS でやり取りをして仲のよい関係ができている生徒もいるが, 中には不登校経験者や自己肯定感が著しく低い生徒もいる。</p> <p>[目標] 互いのよさや個性を認め合い, 思いやりの心をもって行動できる生徒を育成するとともに, SNS の特徴や SNS を利用する上で注意することを気付かせる。</p> <p>[取組内容] ※ 以下の実行例を参照。</p> </div>			
1 学 期 半 ば	D：Do 実行例 <input type="checkbox"/> 自己理解・他者理解や自己開示・相互理解を中心に, 新しい学級集団への適応を図る。 <ul style="list-style-type: none"> 全員を対象とした面談を実施し, 生徒のよさを伝える。また, 支援を必要とする生徒については, 個別のR-PDCAサイクルのプランを立て相談活動を継続する。 認知行動療法の基本的な考え方を教材化したワークシート「私ってどんな人？」を使って, 自分がマイナス面と捉えている欠点を友達に長所へ言い換えてもらう体験活動を通して自己肯定感を高めながら人間関係づくりを図る。 <input type="checkbox"/> SNSの特徴や, SNSを利用する上で人間関係を大切にする注意点を学習する活動を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ワークシート「ショートメッセージでコミュニケーション」を使ったグループ活動を行い, ショートメッセージを使ったコミュニケーションツールの特徴とマナーについて理解を深めさせ, また, ショートメッセージの利用が対人関係や心の健康に影響を与えることについて考えさせる。 ワークシート「SNS疲れとマナー」を使ったグループ活動を行い, インターネット上でのメッセージによるコミュニケーションでは, 相手の状況をよく分からない状態で行ってしまうこと 	○	○	○

2 学 期 前 半	<p>から一方通行になりやすい特性があることや、自分のメッセージに対して返信がないことや、いつまでも読んでくれないことに対して不安になることは、自分の受け止め方の問題であり、相手の立場を気遣う大切さについて考えられるようにする。</p> <p>C : Check 点検</p> <p><input type="checkbox"/> 生徒のSNS利用等の実態を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2回目の「学校楽しいーと」, 「SNSチェックシート」を実施する。 <p>A : Act 修正</p> <p><input type="checkbox"/> 「目標」を修正する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>グループチャットによる人間関係の固定化が見られるようになったため、グループチャットの問題点に気付かせ、学級集団の親睦をより深めるようにする。</p> </div> <p>D : Do 実行例</p> <p><input type="checkbox"/> SNSでの陥りやすい事例を通して、SNSの使い方を振り返らせ、学級全体の人間関係がより親密で和やかなものになるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート「SNSと人とのつながり」を使ったグループ活動を行い、SNSのやり取りが状況によっては友達関係を悪化させていじめ構造に陥る問題があることを考えさせ、留意すべきことを気付かせる。 構成的グループエンカウンターのエクササイズ「いいところ探し」を実施し、互いのよさを見付け出させて自他の理解を深めさせ、リレーション（つながり）の構築を図る。 			
			○ ○	○ ○ ○

イ 個別プラン（1学期間：R→P→D→C→A→Dの1サイクル）

期	活動内容	「豊かな人間関係づくり」の3観点		
		理解	適応	実践力
1 学 期 前 半	<p>R : Research 調査</p> <p><input type="checkbox"/> 個別のSNS利用等の実態を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校楽しいーと」, 「SNSチェックシート」の結果から、リーダーチャートのバランスが極端に悪かったり、SNSの利用に対して不安感を抱くようになりたりしている生徒をスクリーニングする。 スクリーニングした生徒は、学年会や教育相談係会にてアセスメントし、見立て・手立てを策定する。 			
	<p>P : Plan 計画</p> <p><input type="checkbox"/> 個別の「課題」, 「目標」を設定する。</p>			

	<p>〔課題〕 女子生徒Cは、SNSをしている友達が多いが、自己肯定感が低いことや『即レス』の悩み・負担感があることから、精神的に不安定な状態にある。</p> <p>〔目標〕 自分の素直な気持ちを話せるように継続した面談を実施したり、学級の友達に「自分は受け入れてもらえる」と感じたりできる活動を実施していく。</p>			
1 学 期 半 ば	<p>D : Do 実行例</p> <p><input type="checkbox"/> 継続的な面談を実施し、不安感の解消を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「それではダメだ」、「もっと～しなさい」と否定・批判・命令するのではなく、「～と感じていたんだね」と、そのままを受容する姿勢を大切にする。 否定的な自己と比べさせるのではなく、肯定的な自己と比べさせ、目指すべき自己の課題への気づきを促す。 <p><input type="checkbox"/> 職員間の支援体制を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒に関わる全ての職員で情報を共有し、協働で支援するネットワークを確認する。 	○	○	○
1 学 期 後 半	<p>C : Check 点検</p> <p><input type="checkbox"/> 個別に2回目の調査を実施し、1回目と比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> Cの「学校楽しいーと」、「SNSチェックシート」の結果や本人を観察した様子からどのように変容してきたのかを学年会、職員会議で確認するとともに、これまで行ってきた具体的な対応策についての検証を行う。 <p>A : Act 修正</p> <p><input type="checkbox"/> 「目標」を修正する。</p>			
	<p>Cは、1回目と比較して自己肯定感が高まり、『即レス』の悩み・負担感はやや解消された。仲のよい友達には自分の素直な気持ちを話せるようになったが、『やり取りをする相手との関係性』の悩み・負担感を感じるようになっているので、定期的な面談を実施していく。</p>			
	<p>D : Do 実行例</p> <p><input type="checkbox"/> 面談でアサーショントレーニングを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分のコミュニケーションパターンに気付かせ、ロールプレイングを繰り返しながら、自分の感情や要求、意見の適切な表現方法を身に付けさせていく。 <p><input type="checkbox"/> グループ活動を積極的に実施し、自己開示のしやすい関係を築く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 構成的グループ・エンカウターのエクササイズ「サイコロトーク」を実施し、自分の思いや体験を語り合わせ、友達と交流できる実践力が高まるように支援する。 	○	○	○

3 授業の実践例（中学校）

本校の生徒指導上の課題

(1) 本校の実態

本校は市のほぼ中央部に位置し、中心部を流れる一級河川を境に北部中央市街地を校区とする。小高い常緑の森に囲まれた山陵と神社の麓にあり、薩摩国府跡の貴重な遺産など古来の文化が息づく風情豊かな地域である。「学力向上への積極的な取組」、「生徒指導の充実」、「小中一貫教育の確立」に全校生徒、教職員が一丸となって取り組んでいる。

大規模校としては、全体的に落ち着いた学校生活を送っているものの、授業への取組の点で受動的な姿が多く見られる。話し合い活動や言語活動の場面を工夫した授業形態よりも、基本的事項を重視した授業や毎時の復習テストや出題範囲が限定されたテストなどには意欲的だが、自分の考えの発表や創作活動を盛り込んだ授業においては消極的な傾向がある。

(2) 指導上の課題

数年前にLINE上での言葉を用いてのやり取りの延長から友人間のトラブルを引き起こしたり、ネット上に学校名付きで写真を投稿してしまい、ネットパトロールの指導を受けたりした事案があり、保護者に対して「持たせる上での家庭での責任」について話をしたこともあった。

本校では、原則として携帯電話（スマートフォン含む）を所持させないことを基本方針としているが、生徒の所持率は全国の統計結果に類似する形で年々増加傾向にあり、保護者にあらゆる場面で「携帯電話を使用させるなら約束事を守らせる。守れない時は使用を禁止（繰り返す時は解約）する。」という態度で向き合うように、使用についての家庭での責任について訴えている。また、携帯電話を所持することの危険性や功罪を主とした注意喚起の継続、居住区域内にある公衆無線LANスポットでの迷惑行為について指導を要する現状がある。

(3) 「学校楽しいと」、「SNSチェックシート」の調査結果の分析（5月実施）

ア 「学校楽しい」の結果分析（最大値を16としたときの学年の平均値）

レーダーチャートからバランスを見ると、「友達との関係」や「学級集団における適応感」は良好と判断できる。「学習意欲」についてもおおむね良好であるが、上述したように決して能動的とは言えない。「心身の状態」と「教師との関係」は、改善に向けて取り組む必要性を感じる。

表4-1 「学校楽しいと」 1回目の学年平均値

	観 点	1回目
1	友達との関係	13.4
2	教師との関係	10.2
3	学習意欲	12.1
4	自己肯定感	11.4
5	心身の状態	9.3
6	学級集団における適応感	12.6

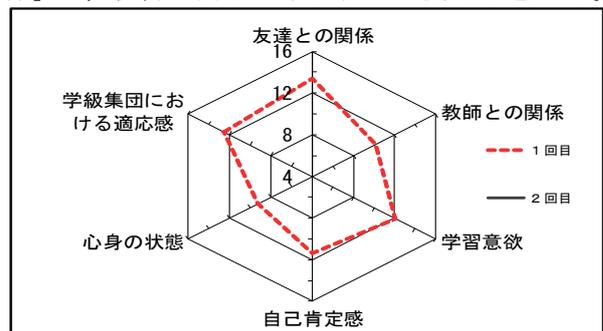


図4-1 「学校楽しいと」 1回目のレーダーチャート

イ 「SNSチェックシート」の結果分析（最大値を100としたときの学年の平均値）

『SNS利用のやり取り』の親和性との関係について、生徒自身が所持している携帯電話やスマートフォンだけではなく、保護者所有の携帯電話や学習用タブレット端末を利用してSNS上でのやり取りをしているケースもあり留意する必要がある。また、『「SNS利用をめぐるトラブル」への対処の意識』が低いことから、情報モラル教育の必要性を感じる。

表4-2 「SNSチェック」 1回目の学年平均値

	観 点	1回目
1	「SNSをめぐるトラブル」への備えの意識	76.2
2	「SNSをめぐるトラブル」への発生後の対処の意識	46.5
3	「SNS利用のやり取り」の親和性	36.8
4	「やり取りをする相手との関係性」の悩み・負担感	63.1
5	「即レス」の悩み・負担感	66.2

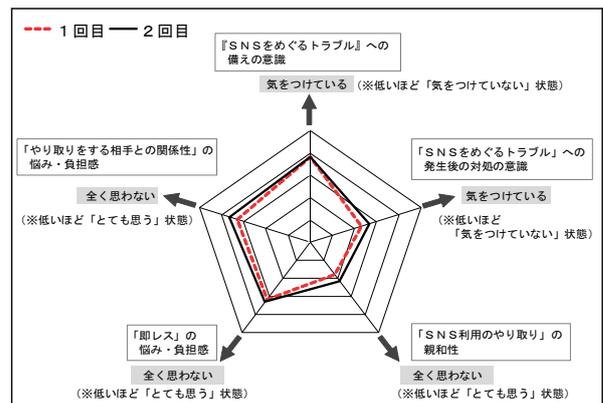


図4-2 「SNSチェックシート」 1回目のレーダーチャート

現代社会と私たちの生活～情報化（情報が変える社会の仕組み）～

実施日：平成28年7月8日（金）5校時

対象学年：中学校第3学年（男子21人，女子19人）

(1) 主題設定について

規範意識を構成する「思慮」、「節度」、「思いやり」、「礼儀」、「正義」等の中で，特に情報モラルに関して強く影響していると考えられている要素は「節度」や「正義」などの規範意識の高揚を主とするものが大半である。この要因を踏まえ，道徳的価値の内容項目の二つを3年社会公民的分野の単元「情報化社会」に関連させ，授業内容を構成した。

(2) 本時の内容

	主な学習活動	留意点や評価との関連
導入	1 アイスブレイクを体験する。〔5分〕 「自分との共通点を三つもつ級友を探そう。」	○ 能動的に活動できる雰囲気づくり ・ 人間関係の構図にも配慮する。 ・ 展開へとつながるような支援を行う。
展開	2 個人情報の作成をする。〔5分〕 氏名・電話番号・カミングアウト 3 ワークシートを使ったグループでの交流活動 (1) カミングアウト〔5分〕 (2) Q&Aセッション〔10分〕 4 「ネット炎上」について具体的な事例を通して学ぶ。〔15分〕 (1) コミュニティーサイトへの入口 (2) 出口の見えないトラブル	○ オープンにする内容については予めルールを説明しておく。特に、「開示の限界」について考えさせる。 ○ 発表を聞いている生徒には聞きながら質問の準備をさせておく。 ○ IT企業が提供する資料を活用して，「ネット炎上」の実態と自分たちの生活との密接度を感じさせる。 ○ ネット利用における「節度」と「正義」について考えさせる。
終末	5 本時のまとめをする。〔10分〕 (1) 「ネット炎上」の怖さ (2) 今後の生活で意識すべきこと	○ 感想文に偏らないように，自分の生活に今後どのように生かしていくかについて考えさせる。

(3) 評価

- 「スマホ上の画面＝玄関のドア」という考えを通して個人情報の管理の大切さを理解できたか。
- 今後の生活において，ネット利用時の「自他の安全」を確保していくための「節度」と「正義」の意識が備わったか。

(4) 授業後の生徒の感想（一部抜粋）

- ふざけて投稿したものが即時に何万，何百万人もの人に広がり，5年後，10年後，又は一生つきまとって自分を苦しめることに恐怖を感じた。
- 技術が進歩していくことは私たちの生活にとってとても便利なことだけど，それ以上に思いもよらない恐怖（場所を特定されたり）と隣り合わせにいることを感じた。
- 文章力をしっかり身につけてから社会に出る準備をしないといけないと強く感じました。



写真1-2 アイスブレイキングの様子



写真1-2 ワークシートを使ったグループ活動の様子

実践の検証

- (1) 「学校楽しいと」、 「SNSチェックシート」 の調査結果（5月と10月実施）の比較分析
 ア 「学校楽しいと」の結果

「学級集団での適応感」は大きく改善され、「心身の状態」、「自己肯定感」もわずかに改善された。日々の学校生活において、生徒会活動を中心に活気ある雰囲気 が保たれており、「学級集団における適応感」は、体育大会や文化祭の成功に向けて全力で取り組む姿がほとんどの生徒に見られた結果と捉えている。

他の観点は、前回とほぼ同様の結果と捉えている。若干の落ち込みがある「教師との関係」、「学習意欲」、また改善傾向にあるものの低い数値で推移している「心身の状態」については、学校の現状を振り返るに、全職員で「見逃すことなく漏らすことなく」という理念の下、学力向上対策の基盤である「学習の躰」の徹底や、より高いレベルで最後まで課題解決に取り組ませる学習指導に対して、生徒たちがある種の疲労感を感じているのではないかと推察している。

表4-3 「学校楽しいと」 2回目の学年平均値

	観 点	1 回目	2 回目
1	友達との関係	13.4	13.4
2	教師との関係	10.2	10.1
3	学習意欲	12.1	11.8
4	自己肯定感	11.4	11.6
5	心身の状態	9.3	9.7
6	学級集団における適応感	12.6	13.7

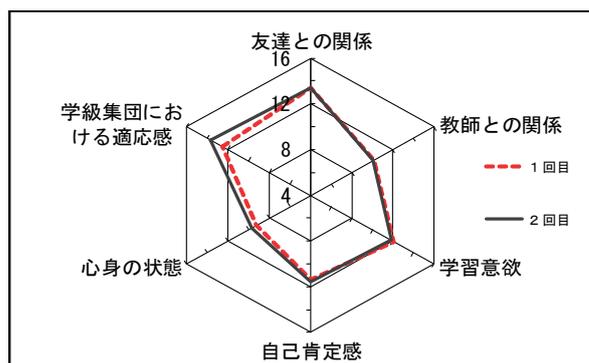


図4-3 「学校楽しいと」 2回目のレーダーチャート

- イ 「SNSチェックシート」の結果

1回目の調査で課題となっていた『SNSをめぐるトラブル』への発生後の対処のSNS観点は、トラブルにならないための予防に重点を置いた指導を道徳や学級活動等で行った結果、意識の向上につながったものと考えられる。また、『SNS利用のやり取り』の親和性のSNS観点が良好になったのは、SNS利用で現実に発生している犯罪やトラブル、個人情報流出等の課題を基にした授業を実施することが自分のSNS利用の現状を考えるきっかけとなり、注意喚起につながったものと考えられる。

表4-4 「学校楽しいと」 2回目の学年平均値

	観 点	1 回目	2 回目
1	「SNSをめぐるトラブル」への備えの意識	76.2	76.9
2	「SNSをめぐるトラブル」への発生後の対処の意識	46.5	53.7
3	「SNS利用のやり取り」の親和性	36.8	43.9
4	「やり取りをする相手との関係性」の悩み・負担感	63.1	66.5
5	「即レス」の悩み・負担感	66.2	73.4

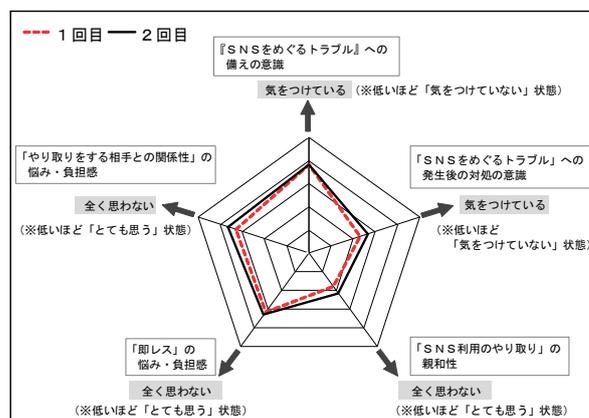


図4-4 「学校楽しいと」 2回目のレーダーチャート

- (2) 成果と課題

生徒は、SNSを巡る問題を扱った授業や道徳、学級活動を通して、「コミュニケーション能力を上げていく必要性」を実感するようになった。また、メールやネットでのやり取りをするときは、相手の反応が判断しにくいとため、表情や声のトーンなどに十分配慮して、自分の思いを正確に言葉で伝えることや、相手の気持ちを正しく読み取ることの大切さに気づき、これまでの使い方を振り返る姿も見られるようになった。

携帯電話を持ち始める時期が低年齢化の傾向にあるため、情報モラル及びコミュニケーション能力の育成について、機会あるごとに小・中学校の連携を図って情報交換を行いながら、デジタルネイティブ世代の現状を踏まえた段階的指導を計画的に推進していきたい。また、学校・保護者・地域を主体とした情報交換に努め、所有及び使用に関する保護者の責任について、学校の指導方針を明確に示しておくことも必要と考える。